

## 2016年3月期 第3四半期決算説明会

### 主な質疑応答

日時：2016年1月29日（金）17:00 ～ 17:50

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩

取締役 常務執行役員 浜田 昭博

#### 1. トクヤママレーシアの減損損失計上について

- Q1 : 第3四半期に減損を計上した背景を説明ください。
- A : 減損のトリガーは太陽電池向け多結晶シリコン価格の下落です。従来の事業計画で想定していたスポット市況が16年度に\$18/kg、17年度に\$20/kgであったのに対し、この第3四半期に入っても市況の下落が止まらず足元の市況が\$13/kgと、想定から大きく乖離してきたため、従来の計画をそのまま継続することは難しいと判断しました。
- Q2 : 減損となったトクヤママレーシアへの投資に関して、どこに誤りがあったのか社長の考えを教えてください。
- A : トクヤママレーシア PS-2 の投資を決めたタイミングとしては、当時、立ち上げの途中であった PS-1 の成り行きを確認することも可能だったかもしれないものの、一方で需要は強く販売価格も良いタイミングであったことも事実です。このあたりは、計画そのものを止められなかったかどうか等も含めて、原因究明委員会の報告を待って判断し、今後の対策に活かしていきたいと考えています。

#### 2. トクヤママレーシアの今後について

- Q3 : 将来的に多結晶シリコンの製造キャッシュコストをさらに引き下げることができる理由を教えてください。
- A : 現状の為替に沿って見直しをしたことに加えて、現在考えているコストダウン策を実施することにより達成できると考えています。

#### 3. 財務に関して

- Q4 : 純資産の回復策について、どのような方法を検討していますか？
- A : 純資産を大きく毀損したことは課題と考えています。今後純資産をどう回復していくかは、中期経営計画の見直しと併せて多面的に検討し、4月末の期末決算発表の場でご説明したいと考えています。

#### 4. 半導体用途向け多結晶シリコンについて

Q5 : 第4四半期にかなりの量が販売される計画になっているようですが、単純に出荷スケジュールによるものと考えてよろしいでしょうか？

A : そう考えていただいて結構です。

以上